

令和7年度自己評価結果公表シート

学校法人ひじり学園

幼保連携型認定こども園 せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園

1. 本園の教育目標

園児一人一人の存在そのものを尊重し、個性を大切にする教育により自己肯定感を育てると共に、人と関わる良さ、自然と関わる良さを十分に経験し、意欲的に力強く生きる力を育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

1. 行事の見直し

- ・ 温暖化の影響を考慮し、夏季の屋外活動が困難な時期には屋内で実施可能な活動・保育や行事を導入。
- ・ ・運動会の時期を10月末に変更。11月末に実施していた「つくろうデイ」を9月に移動し、内容も変更。併せて、名称を「アートフェスタ」に変更。

2. 屋外環境の充実と整備

- ・ 0歳から就学前の子どもたちが日常的に利用する屋外環境について、乳児と幼児担当者が協力し次の取りくみを進める。
- ・ 屋外での子どもの遊びや成長の特徴を分析し、環境や遊具の在り方を検討。・各年齢の成長に応じた遊びの場や遊具を見直し、環境整備を実施する。

3. 地域子育て支援の充実

- ・ 昨年度までモデル事業だった「誰でも通園制度」を試行。2歳児を対象とした週1回1クラス定員10名の「つくし組」を3クラス開設し、子どもの発達及び子育て家庭を支援する。
- ・ ・0～2歳児の親子教室および園庭開放を週1回実施し、地域の子育て家庭が交流できる場の提供。地域における子育て支援の充実を図る。

4. 特別支援保育の充実

- ・ 一人ひとりの子どもを深く理解するため情報を共有し、振り返り会議や研修等で支援の在り方を検討する。
- ・ インカムを活用し、支援担当者と職員がリアルタイムで連携をとりながら、園全体で支援児の育ちを支える。
- ・ 家庭や市の担当者や療育施設等と密に連携し、多様な保育や支援の在り方を模索する。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1. 行事の見直し	・運動会を10月25日に開催。練習は室内を使用しながら進めた。学年ごとに開催。午後からは卒園生向けにスポーツフェスタを開催。過ごしやすい中開催することができた。 ・11月末に実施していた「つくろうデー」を9月20日に「アートフェスタ」に名称変更して実施。室内で、様々な素材に触れたり制作ができるコーナーを設けた。親子で制作を楽しむ様子が見られた。秋の運動会後は遠足や屋外活動をゆったり実施することができた。
2. 屋外環境の充実と整備	・0歳から就学前の子どもたちが日常的に利用する屋外環境について、乳児と幼児担当者が協力して会議を開き、安全に豊かな遊びができるようなコーナーづくり等に取り組んだ。乳児が使いやすい屋外遊具として子育て支援棟の屋上の改装工事を計画。 ・屋外での子どもの遊びや成長の特徴を分析し、環境や遊具の在り方を検討。・各年齢の成長に応じた遊びの場や遊具を見直し、環境整備を実施する。
3. 地域子育て支援の充実	・昨年度までモデル事業だった「誰でも通園制度」を試行事業として、2歳児を対象とした週1回1クラス定員10名の「つくし組」を3クラス開設。子どもの発達及び子育て家庭を支援した。 ・0～2歳児の親子教室および園庭開放を週1回実施し、地域の子育て家庭が交流できる場の提供。地域における子育て支援の充実を図った。
4. 特別支援保育の充実	・一人ひとりの子どもを深く理解するため情報を共有し、振り返り会議や研修等で支援の在り方を ・年3回の支援に関する園内研修の中で、更に専門的な視点によってカイサツシテイタダイタイムカムを活用し、支援担当者と職員がリアルタイムで連携をとりながら、園全体で支援児の育ちを支える。 ・家庭や市の担当者や療育施設等と密に連携し、多様な保育や支援の在り方を模索する。

4:今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
1. 屋外環境の計画的実施	・子どもの運動能力の相対的な低下に伴い、多種多様な運動の経験ができるような運動設備や環境を整える。 ・がんばの森大型遊具が混雑するため、更に高年齢の子どもたちがチャレンジできるような大型遊具を8月に設置工事予定。 ・乳児が安心して、体を使って遊べるように子育て支援棟の屋上に人工芝を敷き、上り下りの運動ができるような遊具を設置する。
2. 預かり保育の質的向上と環境整備	・教育時間と預かり保育時間の保育の連続性を意識し、保育者同士の連携、遊びの継続を視野に入れて環境や素材を工夫する。 ・引き続き、預かり保育担当者会議において、子どもの姿の写真から子ども理解を深め、関わりや環境のさらなる質の向上を図る。 ・夏の幼児教育実践学会で、自園の預かり保育の取り組みについてのポスター発表のために、自園の取り組みを俯瞰し、まとめる
3. 子育て支援拠点の機能充実	・昨年度までモデル事業だった「誰でも通園制度」を本格実施予定。昨年に引き続き、2歳児を対象とした週1回1クラス定員10名の「つくし組」を3クラス開設し、子どもの発達及び子育て家庭を支援する。 ・0～2歳児の親子教室および園庭開放を週1回実施し、地域の子育て家庭が交流できる場の提供。地域における子育て支援の充実を図る。
4. インクルーシブ保育(特別支援)の推進	・特別支援児の増加に対応するため、以下の取り組みを強化する。一人ひとりの子どもを深く理解するため情報を共有。振り返り会議や研修等で支援の在り方を検討する。インカムを活用し、支援担当者と職員がリアルタイムで連携をとりながら、園全体で支援児の育ちを支える。家庭や市の担当者や療育施設等と密に連携し、多様な保育や支援の在り方を模索する。

5:学校関係者の評価

2025 年度 保護者アンケート結果の概要(自己評価公開シート掲載用)

1 教育・保育について【評価結果】

教育全体 とてもよかった 91.3% よかった 8.3%

教育方針の理解 よく理解できた 81.3% 理解できた 18.7%

教育については約100%の保護者から肯定的な評価であった。

【主な意見】

・子ども主体の保育 ・一人ひとりの個性を尊重した関わり ・自己肯定感を育てる教育 ・結果ではなく過程を大切にする保育について、多くの共感。「幼稚園は休みたくないと言っています。」「自分で考え、挑戦する力が育ったと感じます。」「先生方が子どもの良さを見つけて伸ばしてください。」など、多くの感謝の言葉があった。また、ドキュメンテーションやポートフォリオを通して、家庭と園が子どもの成長を共有できることへの評価も高く、保護者との信頼関係づくりにつながっている。

【今後に向けて】

今後も「子どもまんなか」の教育を大切にし、一人ひとりの思いや育ちを丁寧に受け止めながら、主体性・協同性・自己肯定感を育む保育を継続していく。

2 教育環境・情報発信・給食について【評価結果】

情報発信 とてもよかった 81.3% よかった 16.7%

教育環境 とてもよかった 81.0% よかった 18.3%

給食 とてもよかった 82.5% よかった 15.5%

【主なご意見】

園での様子を写真や動画、ポートフォリオ、ドキュメンテーションなどで発信していることについて、「園での生活がよく分かる」「子どもとの会話が広がる」「保育の意図まで理解できる」など、大変高い評価。

教育環境では、・子どもの興味に合わせて変化する遊びのコーナー ・豊かな自然環境 ・絵本や教材の充実 ・園庭や遊具 など、子どもが主体的に遊び込める環境について多くの評価。

給食については、・自園調理のおいしさ ・食育への取組 ・偏食改善 ・アレルギー対応 などが高く評価。

【今後に向けて】

今後も、子どもたちの育ちが保護者に伝わる情報発信を継続するとともに、遊びや生活を支える教育環境の充実、安全でおいしい給食の提供に努める。

3 行事・送迎・PTA 活動について

【評価結果】

行事 とてもよかった 85.3% よかった 12.7%

送迎 とてもよかった 61.0% よかった 15.0%

PTA 活動 とてもよかった 54.8% よかった 31.6%

【主なご意見】

行事については、「完成した姿だけでなく、子どもたちが話し合いながら創り上げる過程に感動した」という意見。また、・仲間と協力する経験 ・悔しさを乗り越える経験
・主体的に考える経験が子どもの大きな成長につながっているとの評価。

徒歩送迎については、体力づくりだけでなく、・異年齢交流 ・思いやり ・責任感 ・自立心 を育む機会として評価。

PTA 活動については、保護者同士の交流や子どもたちの園生活を身近に感じられる貴重な機会となっているとのご意見。

一方で、「先生方の負担が大きくなりすぎないようにしてほしい」「情報発信は大変だと思うので無理のない範囲で続けてほしい」という温かいご意見も。

今後の改善と取組

今回のアンケートでは、多くの保護者の皆様から高い評価と温かい励ましの言葉が記載されていた。一方で、より分かりやすい情報発信や、園・家庭双方にとって負担の少ない運営についての意見もあった。これらのご意見を真摯に受け止め、子どもたちにとってより良い教育環境づくりと、保護者との信頼関係をさらに深められるよう改善に努めていきたい。今後も「子どもをまんかにした教育」を大切に、一人ひとりの育ちを支える質の高い保育を実践していきたい。

7、財務状況

公認会計士による年間4回の監査において、園児募集が順調であり、耐震化に伴う大規模改修、建て替え工事のための借入金も順調に返済が進む等、財務状況は大変良好であるとの指摘を受けている。